

2022年度 SBT成果報告



株式会社WOOD
LIFE COMPANY



SCOPE毎のCO2排出量

合計排出量

SCOPE1 CO2排出量

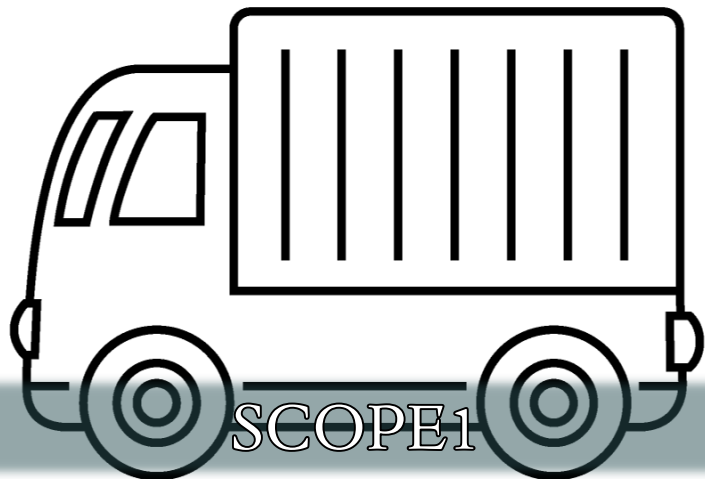
SCOPE2 CO2排出量

SCOPE3 CO2排出量



各サプライチェーンにおけるCO2排出項目 (項目 = SCOPE)

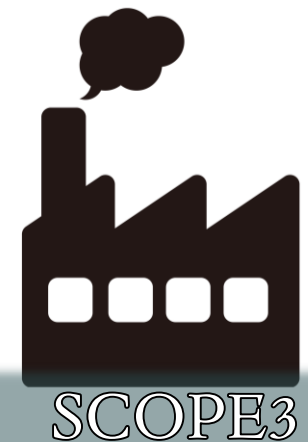
社用車の燃料（ガソリン・軽油）及び重機の燃料（軽油）、事務所の給湯に使用している都市ガスが対象



国内および海外において自社が購入した熱・電力からの排出を算定の対象
(間接排出)



SCOPE1に含まれない搬入元から自社の工場までの輸送に伴う排出量が対象





SCOPE毎のCO2排出量

前年より排出量が増加した要因

- 搬入出量が増加し、全体に占めるスコープ3/
カテゴリ4が大きい。
- スコープ2は再エネ電気導入のため、減少した。

スコープ/カテゴリ	排出量 (t-CO2)				
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
サプライチェーン排出量	3022	2905	2555	1946	1985
スコープ1	701	505	321	347	355
スコープ2	197	202	161	24	5
スコープ3	2124	2198	2073	1576	1625

合計排出量

(サプライチェーン排出量)

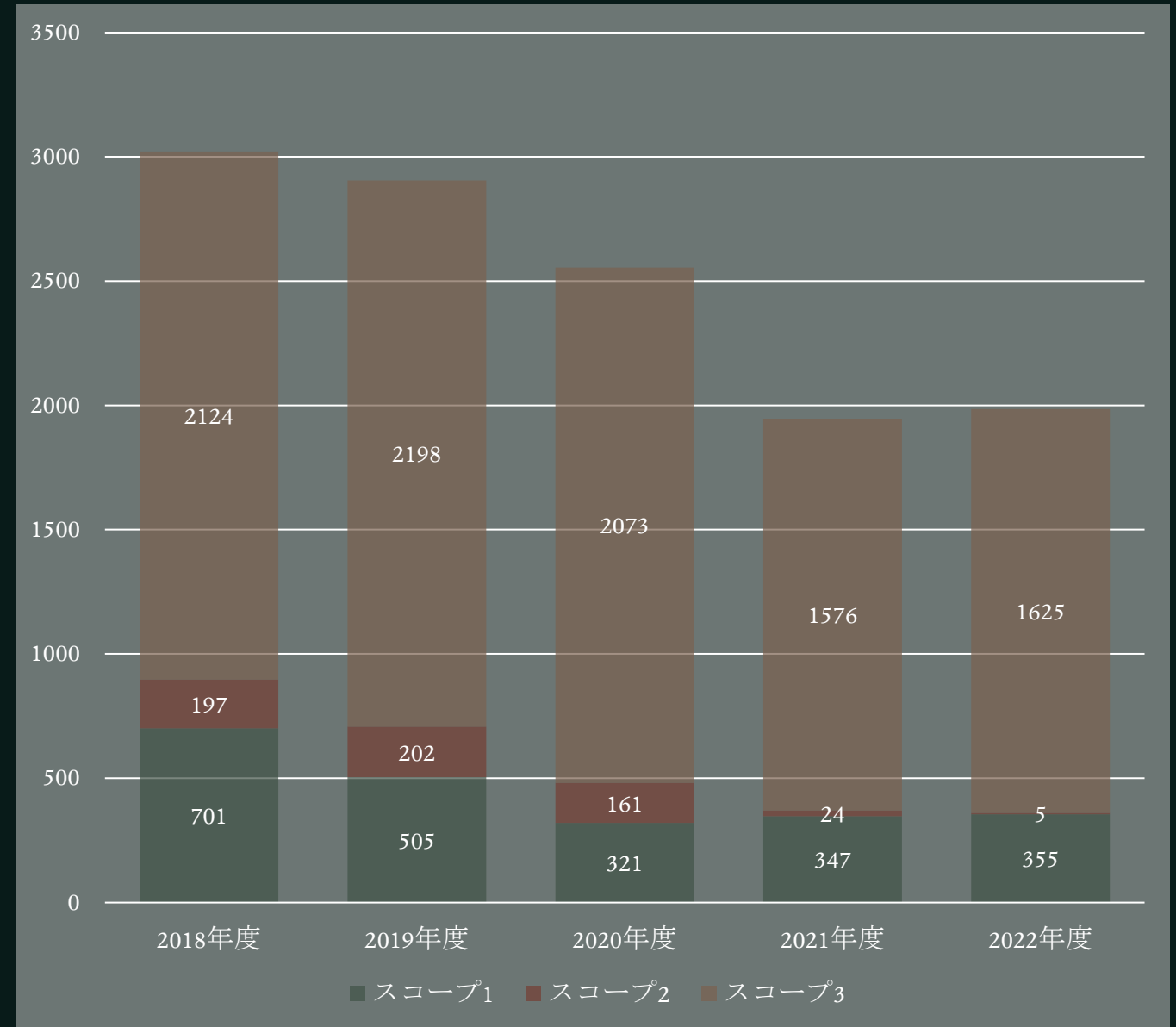
現状と課題

2018年度と比べ、2022年度は約1037 t（約34%）の削減を実現している。

しかし昨年度と比較すると、従業員数が増え、運搬車が頻回に動くようになり、消費するガソリン等が増えたと考えられる。

容易に取り組める再生可能エネルギーから発電される電気へ切り替えが完了したため、今後取り組む内容の検討が重要事項である。

排出量
(t-CO₂)



SCOPE1 CO2排出量

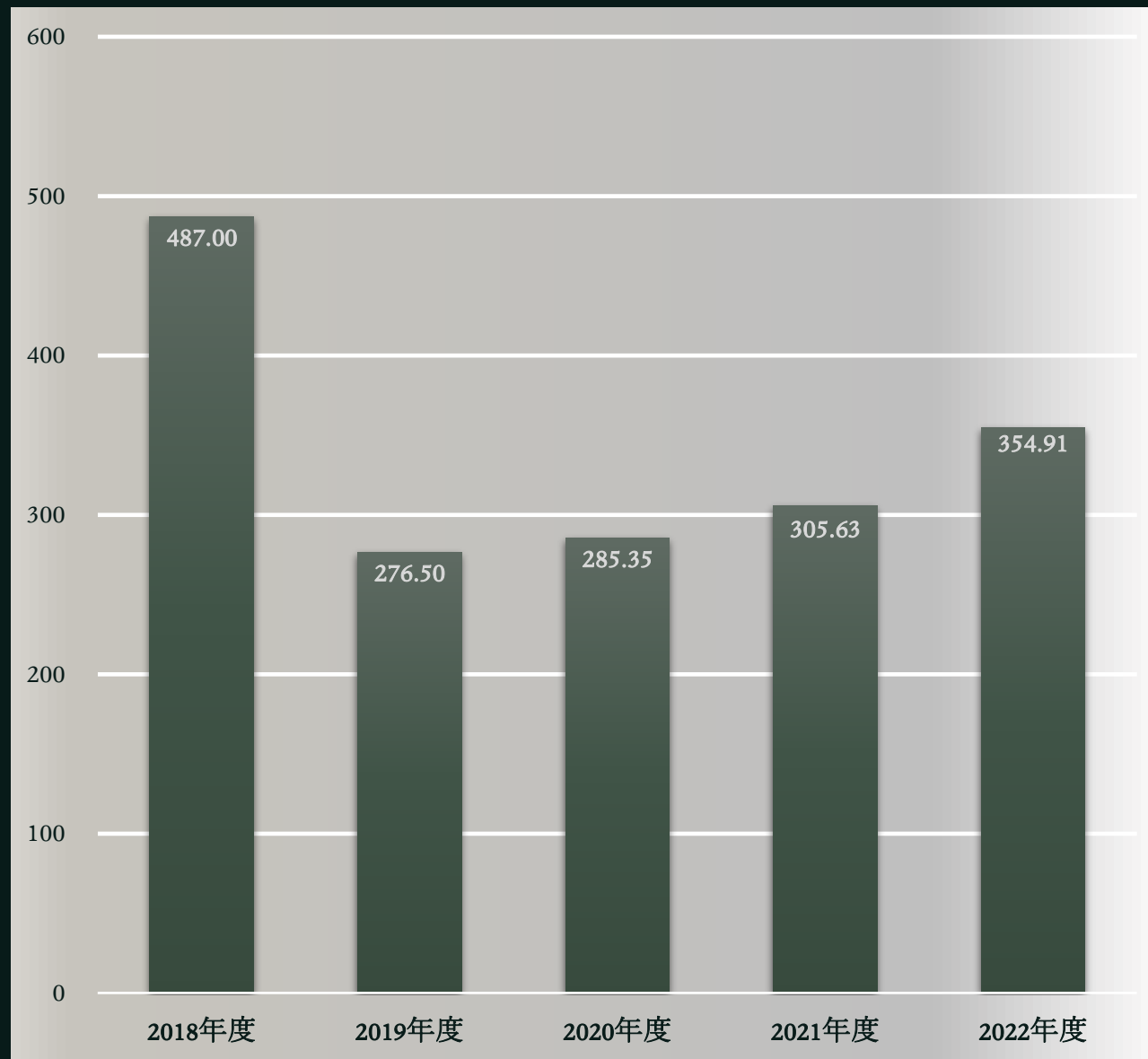
現状と課題

2018年度と比べ、2022年度は約132 t（約27%）の削減を実現している。

しかし、昨年度と比較すれば増加傾向にあり、削減方法の検討が重要である。

現在軽油のみを使用している重機をハイブリッド重機へ変える等の見直しが重要となる。

排出量
(t-CO2)



SCOPE2 CO2排出量

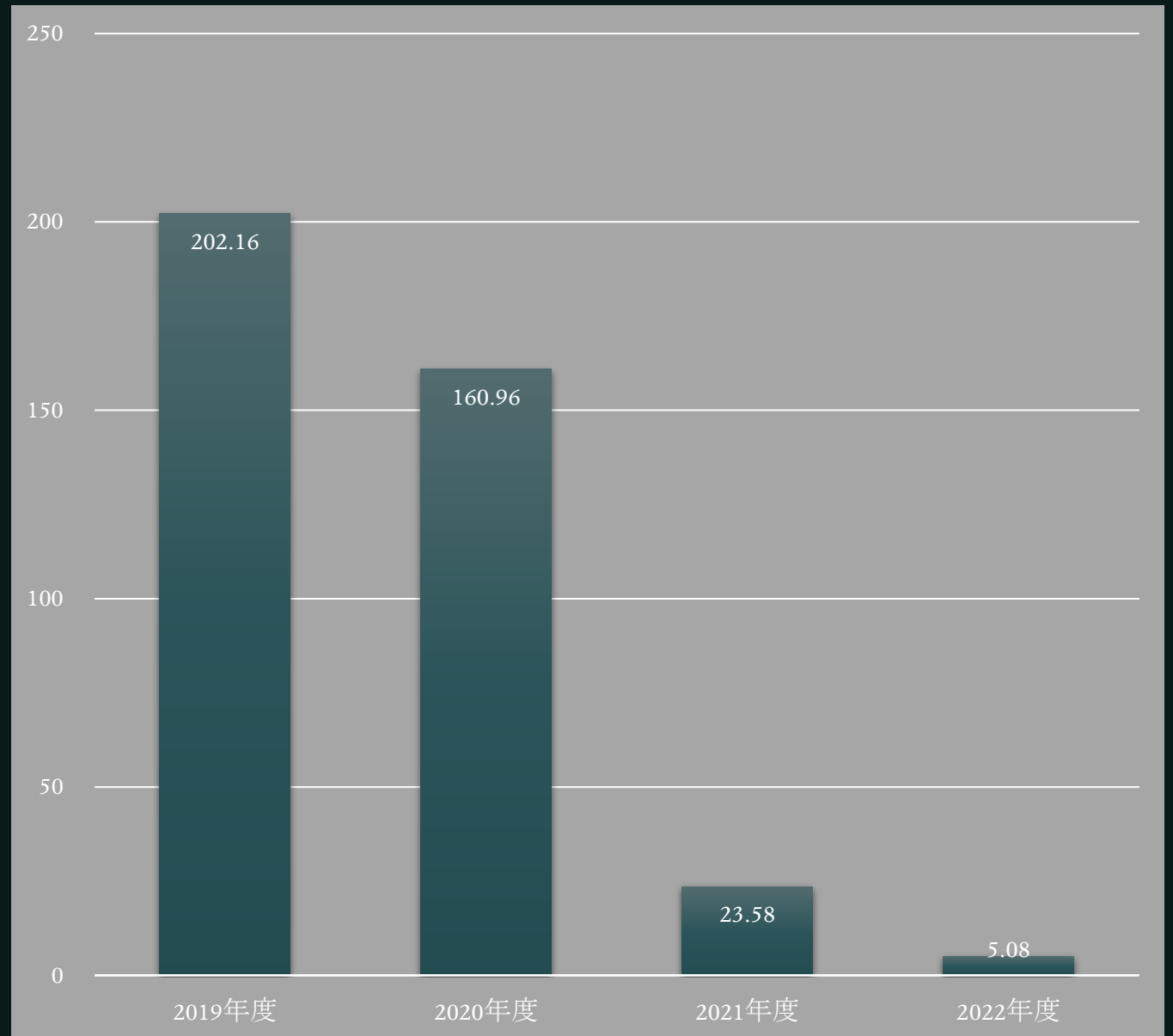
現状と課題

2018年度と比較し、2022年度は約197t(約97%)の削減を実現している。

2021年度と比較すれば約18t(約78%)の削減である。

しかし、事務所使用電気は再エネではないため、今後再エネ100%の電気を導入する予定である。

排出量
(t-CO2)



SCOPE3 CO2排出量

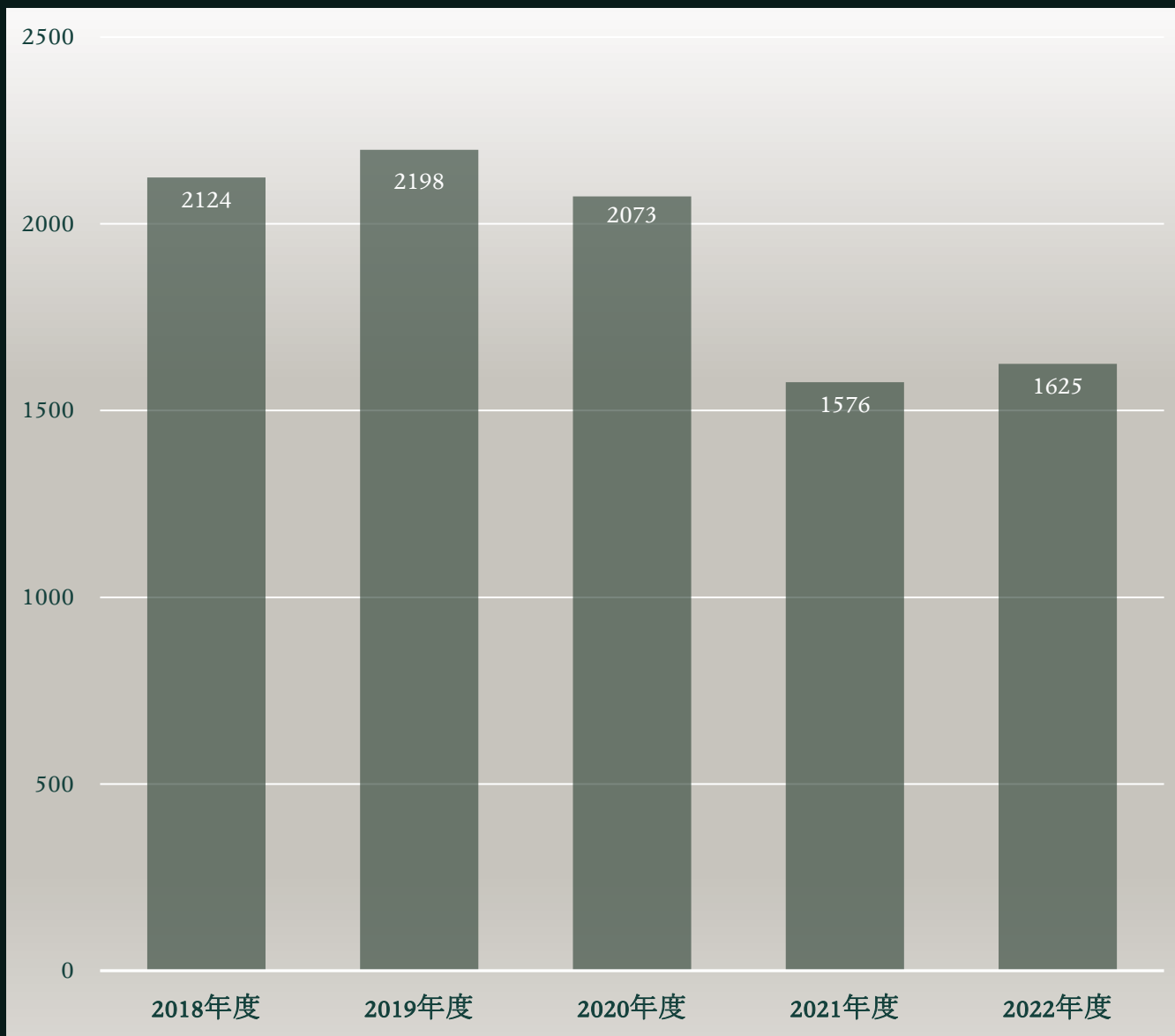
現状と課題

2018年度と比べ、2022年度は約500 t（約23%）の削減を達成している。

コロナ禍より景気は回復傾向にあり、減少率はゆるやかになった。

現在、調達・出荷時に使用するトラックは全てガソリン車であり、見直す必要が大いにある。

排出量
(t-CO₂)



今後の目標

- ・2030年までに2018年比30%の削減
- ・2050年までに2018年比80%の削減

- ・事務所へ再生可能エネルギーによって
発電された電気の導入
- ・車両、重機等をハイブリッド機へ入替
- ・前年と比較し、CO2排出量が増加しているため、抜本的な改善策の検討

